

④ 高尾山の森

暖温帯と冷温帯の植物が生育する植物の宝庫

【概要】信仰の山として長く保護されてきており、また北斜面には落葉広葉樹林、南斜面には常緑広葉樹林が広がるため、極めて多くの植物が生育している。交通至便で観察路も整備されており、植物観察・ハイキングに最適の場所である。

【高尾山の特徴と見所・歴史文化】

高尾山は東京都の南西に位置し神奈川県との境にあります。昭和42年に明治の森高尾国定公園に指定されました。標高は599mとそれほど高い山ではありませんが、植物の種類は約1,600種といわれ、高尾山で発見され、原標本産地とする植物は70種に及びます。また樹齢700年といわれるスギの巨樹(東京都天然記念物)や天然のモミ、ブナ、イヌブナ、アカガシなどの巨木も多く、自然が豊かで沢山の動植物が生息しています。

744年に行基菩薩が薬師如来を奉り薬王院となり、古くから山岳信仰の対象であり、1375年に俊源大徳が飯縄権現を奉って以来、山岳仏教と修験の場として栄えるようになる。また戦略的にも要となる場所だったこともあり、戦国時代には八王子城主北条氏照が手厚く保護し、江戸時代には徳川幕府の御林山として代々保護されてきた歴史があります。

【暖温帯林の北限】

日影沢は高尾山の北側の谷、裏高尾に流れる小仏川に注ぐ支流です。清冽な溪流のため、一年を通して気温が上がらず、冷温帯(落葉広葉樹)林が生育しています。山の中腹部は斜面の温暖帯と呼ばれ、モミやカシ類が育ち、気温の逆転現象が見られます。またケーブルカー山上駅から薬王院にかけての尾根上に境界があり、北側はイヌブナ・アカシデなどの冷温帯林、南側はアカガシ・ウラジロガシなどの暖温帯(常緑広葉樹)林が分布します。

【春の妖精「スプリングエフェメラル」とは】

落葉広葉樹林の林床には沢山の草本植物があり、早春で樹木の若葉が出る前、林床に陽射しがよく通る時期に花を開き、繁殖期を迎える可憐な花たちのことです。花を落とした後は、樹木に葉が生い茂る夏までの間に光合成を行い、地下の栄養貯蔵器官や種子に栄養素を蓄え、地上からその姿を

消します。そして来春まで地下茎や球根の姿で過ごす、林床性多年生植物です。

【一ロメモ】

ephemeral(エフェメラル)とは「はかない、短命の、つかの間の」を意味し、ほんの2ヶ月ほどしか現れない可憐な花たちにつけられました。ちなみに昆虫界ではギフチョウやウスバシロチョウなどがスプリングエフェメラルと呼ばれています。

コースで見られる主な植物等

【木本類】

冷温帯系の植物

ブナ、アカシデ、アサダ、サワシバ、ハルニレ、ケヤキ、メグスリノキ、イタヤカエデ、コミネカエデ、コハウチワカエデ、フサザクラ、ウワミズザクラ、アブラチャン、ダンコウバイ、マタタビ、オクモミジハグマなど

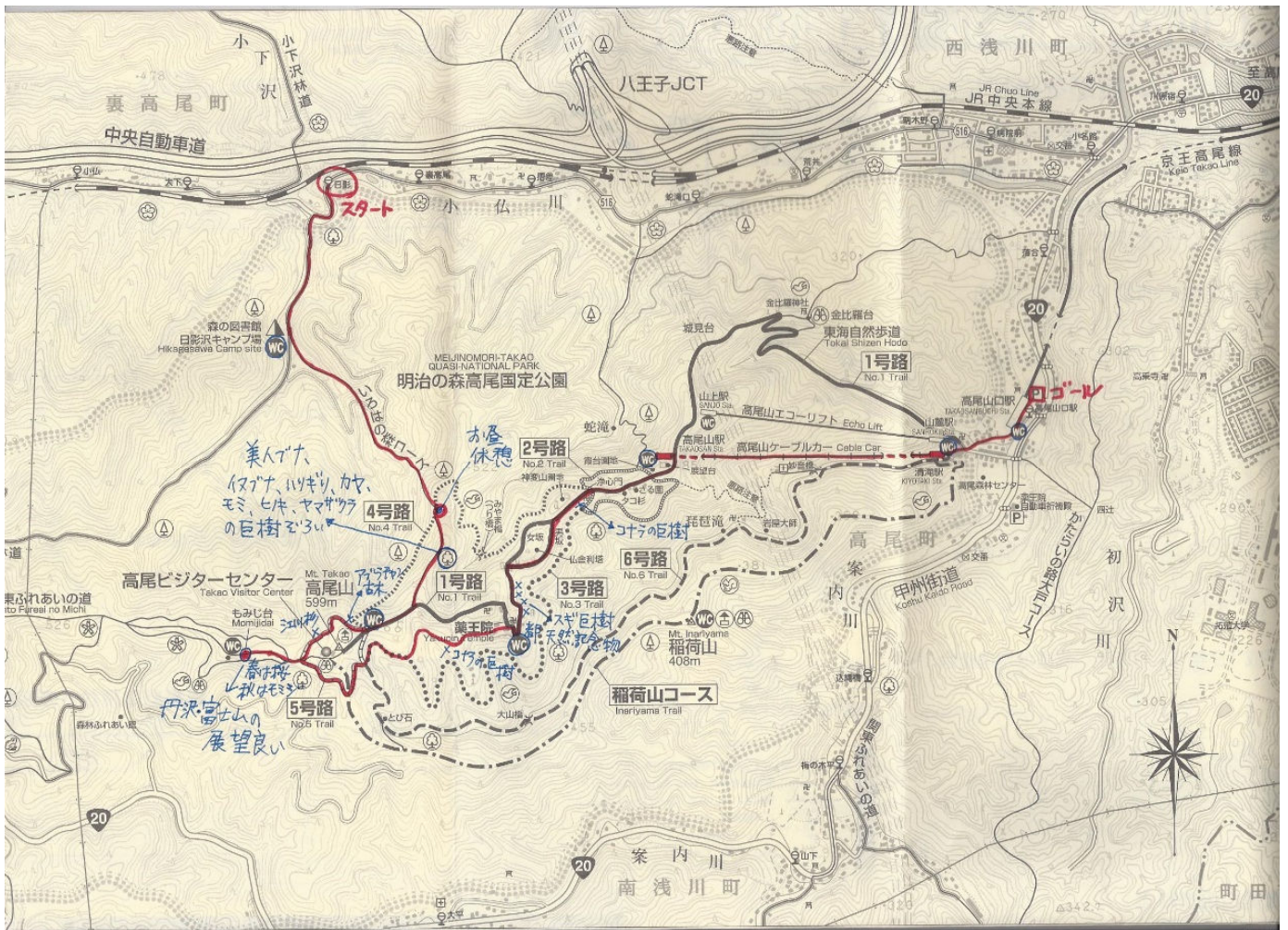
暖温帯系の植物

スダジイ、アカガシ、ウラジロガシ、シラカシ、アラカシ、ツクバネガシ、カゴノキ、シロダモ、ヤブツバキ、カラスザンショウ、アオキ、ミヤマシキミ、サカキ、ヒサカキ、イイギリ、マンリョウ、セッコク、キジョランなど

【草本類】

ハナネコノメ、ヨゴレネコノメ、コチャルメルソウ(ユキノシタ科) キクザキイチゲ、アズマイチゲ、ニリンソウ、イチリンソウ(キンポウゲ科)

カントウミヤマカタバミ(カタバミ科)、エンレイソウ(ユリ科)、ヤマエンゴサク、ジロボウエンゴサク(ケシ科)、セントウソウ(セリ科)、ユリワサビ、マルバコンロンソウ(アブラナ科)、ヤマルリソウ(ムラサキ科)、アオイスマレ、タチツボスマレ、ヒナスミレ、ナガバノスマレサイシンタカオスマレ、エイザンスミレ、ケマルバスマレなど。



【コース紹介】

JR 高尾駅・京王バス⇒日影バス停⇒日影沢キャンプ場→いろはの森→4号路交差点→5号路北側→モミジ台→5号路南側→稲荷山分岐→琵琶滝分岐→3号路→裏道→薬王院→1号路男坂→ケーブルカー高尾山駅→清滝駅→京王線高尾山駅

野外講座企画のための情報

FS 指数 : 4B 水平距離 : 5.3km 登高 508m

(ケーブルを使わない場合)

トイレ :

昼食場所候補 :

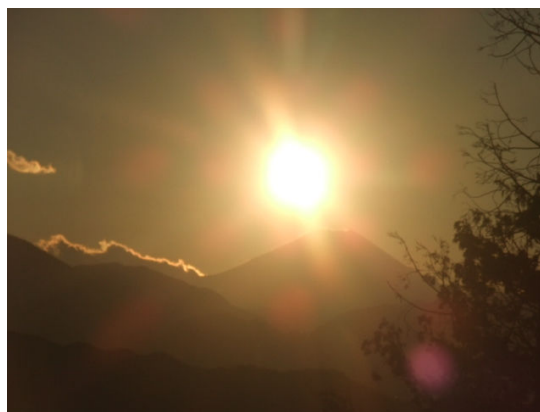
安全確保上の留意点 :

その他 :

近隣の見所 :



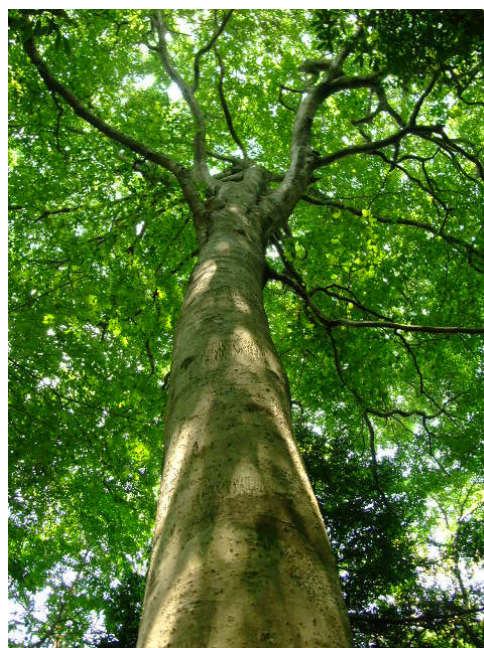
スマイレ街道



もみじ台からのダイヤモンド富



日影沢のハナネコノメ



巨木が立ち並ぶ尾根 美人ブナ



高尾山薬王院有喜寺



高尾山の天然記念物スギ並木